

佐久穂町①「コミュニティ創生戦略」

「しなやかに 力強く つながる まちへ」

自律的なコミュニティを支援

- 住民が楽しく安心して暮らせるまちを実現する
- コミュニティーが地域課題を解決、地域の魅力をつくる
- ひと・しごとが集まり、まちの機能を維持

「なりわい」

・ 冷涼な気候を生かし多品種有機栽培に取り組む若手農家が増え、約50世帯120人で新規就農グループをつくり情報交換や勉強会。就農希望者を呼び込む力に
・ ゲストハウス「山村テラス」 移住してきた30代男性が復元した農家の暮らし



長期滞在の外国人に人気の山村テラス
(信濃毎日新聞2019年1月4日付)

佐久穂町②私立の小学校が開校



2019年4月に開校した「大日向小学校」。欧州発祥の「イエナプラン教育」を国内で初めて実践。異なる年齢の子がサークルを作って学び合う（信濃毎日新聞2019年5月13日付朝刊）



大日向地区では8年ぶりの運動会。住民も移住してきた子どもも保護者も一緒に楽しんだ（信濃毎日新聞19年6月12日付朝刊）

松本市のフューチャーデザインの試み

▽実施主体 松本市、信州大学、地元NPO法人

▽テーマ 新市庁舎建設基本構想＝市役所の機能、役割

▽ワークショップ

- ・ 2017年11月 市職員約60人
- ・ 2018年1月～2月 公募した市民45人（2回）
- ・ 手法 参加者を少人数のグループに。「現役世代」と「将来世代」に分けて討議
「現役世代」＝市の現状、地域課題を学習
★「**将来世代**」＝1960年から2060年までの年表や将来予測
過去を振り返りつつ未来の地域社会をイメージ
「未来人を自らの中に呼び寄せる」学習

▽結果

現役世代＝駐車場不足や老朽化など現状への注文や不満が中心

★**将来世代**＝情報化、AIなどで来庁せずとも窓口の手続きが可能に

※**市民の悩みごとを専門家につなぐ「ハブ機能」→基本構想へ**



(写真提供：＜左＞むつざわスマートウェルネスタウン(株)、＜中央・右＞CHIBAむつざわエネルギー)

千葉県睦沢町の道の駅「むつざわ つどいの郷」

▽昨年9月、台風15号の大規模停電。道の駅（写真中央）と併設する33戸の住宅（写真右）は停電せず
▽天然ガスや太陽光利用の電気供給システムを道の駅に設置。温水シャワーを住民に無償提供。電線も全て地中化、倒木被害もなく防災拠点として機能
▽町と民間企業が出資する新電力会社「CHIBAむつざわエネルギー」が手掛けた発電システム

小規模な地域分散型
エネルギーシステム



しなやかで強靱な防災力を持つ地域づくり。地球温暖化の「適応」「緩和」策